

編集後記

多根総合病院 副院長 渡 瀬 誠

2013年度の明るい話題と言えれば2020年東京オリンピック招致であろう。今年度の院内学会には特別講演に百田尚樹さんをお迎えしました。「『永遠の0』と『海賊とよばれた男』に見る、日本人の生き方」のテーマの下に1964年（昭和39年）、戦後20年足らずで廃墟から立ち上がった日本がオリンピックを開催した時の素晴らしさにも触れられました。振り返ると1995年（平成7年）1月17日の阪神淡路大震災から18年が経過しましたが、局地的な大災害とはいえ、報道などを見ている被災者の方々一人一人にとってはまだまだ本当の意味で復興は完了していません。そして、実際に多くのものを失った方々にとっては「復興」などという簡単な言葉では終わりはないと思います。さらに2011年（平成23年）3月11日に起こった東北大震災で被害を受けた当事者の方々からすれば、「なんでこのタイミングで？」と思われることでしょう。軍人150万人、民間人80万人、合計230万人の日本人が戦争で亡くなり日本全体が焼け野原になっていた事を思うと東京オリンピックを迎えるまでの日本人の努力、魂の強さには改めて驚かされます。原作を読み、先日映画「永遠の0」を見て思うことはたくさんの人々の犠牲のもとに現在の日本の繁栄がある、そして命の大切さということです。自分だけが良ければいいというような利己的な現代人の考え方や行動をみるにつけ、戦争経験者が高齢となりもうすぐ戦争の悲惨さを知らない日本人ばかりになってしまうこの時期に東京オリンピック招致が決まったことは単に偶然ではなく何か大きな意味があるのではないかと思います。「歴史を忘れるな。」そう言われているようです。人間は自分の為に頑張ることには限界があると思いますが、人の為になら、例えば一緒に暮らす家族のためなら無限の力を発揮するのではないのでしょうか。沈滞する日本経済を回復させるというような政治利用ではなく、日本人の精神と能力の素晴らしさを再度世界に見せつけ、どの国からも侵略されないような強い日本国を印象づけられるような大会になることを祈ります。今年原著6、症例報告4、その他4、合計14編の論文が掲載されました。部門別では医師、放射線技師、中央検査技師、薬剤師、看護師と多職種に及び、積極的な投稿が目立つようになってきました。東京オリンピック開催の7年後は多根総合病院医学雑誌発刊の10年目の節目になります。より一層の発展を目指して頑張っていたきたいと思います。

多根総合病院医学雑誌編集委員会

委員長：丹羽 英記（院長）

副委員長：渡瀬 誠（副院長）

委員：林 美樹（副院長）／安部 嘉男（救急科）／小川 淳宏（外科）／森 琢児（外科）／濱 典男（内科）／小川 竜介（脳神経外科）／細川 幸成（泌尿器科）／青池 太志（神経内科）／須賀 久司（整形外科）／松尾 良一（放射線科）／吉原 渡（中央検査部）／竹浦 久司（医療技術部）／川住 勇（中央検査部）／西村 洋子（看護部）

事務局：上野 梢（総務）／織田 恵美（総務）

多根総合病院医学雑誌

第3巻 第1号

平成26年3月 発行

編集兼発行 多根総合病院（代表：丹羽英記）

大阪市西区九条南1丁目12番21号

〒550-0025 電話 (06) 6581-1071(代)

FAX (06) 6585-2757

E-mail ikyoku@tane.or.jp

(担当 上野, 織田)

印刷所 シグマ紙業株式会社

大阪市西淀川区御幣島5丁目12番24号

〒555-0012 電話 (06) 6472-1321(代)